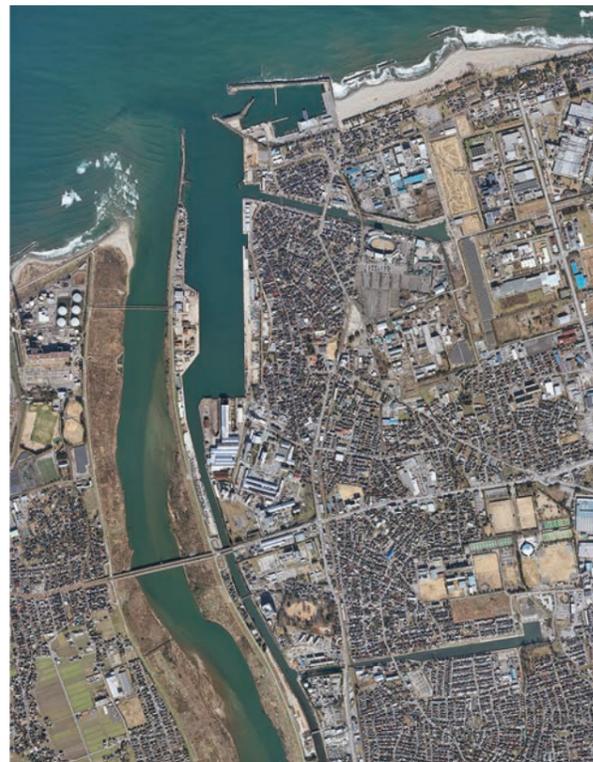


伏木地区



富山地区



新湊地区



伏木富山港



アジア交流の拠点港

伏木富山港

能登半島の南東側付け根に位置する伏木富山港。日本海に面しているが、能登半島に守られ風波の影響が少なく、天然の良港として古来栄えてきた。現在では日本海側の総合的拠点港として、コンテナ貨物取扱量は増加傾向にある。社会経済情勢が大きく変化する中でも、発展し続ける。

■ 伏木富山港位置図と概要



港湾概要	【港湾区域面積】	6,671ha	【総取扱貨物量】	6,096,809t (2024年)	【港湾管理者】 富山県
	【臨港地区面積】	532ha	【コンテナ取扱貨物量】	75,659TEU (2024年)	

■ 伏木富山港のあゆみ

<p>1609(慶長14) 富山地区 神通川の本流が洪水で東に移動。現在の東岩瀬に流れ込み、以後、河口港として利用される。 江戸期～明治期 伏木・富山地区 北前船の寄港地として栄える。</p> <p>1899(明治32) 伏木地区 伏木港が開港場に指定される。</p> <p>1939(昭和14) 伏木・富山地区 東岩瀬港と伏木港が、伏木東岩瀬港として開港場に指定される。</p> <p>1951(昭和26) 伏木・富山地区 伏木東岩瀬港が重要港湾に指定される。伏木東岩瀬港が伏木富山港になる。</p> <p>1968(昭和43) 新湊地区 富山新港(新湊地区)が開港する。</p> <p>1984(昭和59) 新湊地区 定期コンテナ航路(ロシア極東航路)が開設する。</p> <p>1986(昭和61) 伏木富山港 国の特定重要港湾に指定される。</p> <p>1989(平成元) 伏木地区 伏木外港の整備に着手する。</p> <p>1990(平成2) 新湊地区 定期コンテナ航路(韓国航路)が開設する。</p> <p>1996(平成8) 新湊地区 定期コンテナ航路(中国航路)が開設する。</p> <p>1998(平成10) 伏木地区 万葉1号岸壁(水深7.5m)、万葉2号岸壁(水深10m)が供用開始する。</p>	<p>2002(平成14) 新湊地区 国際物流ターミナル北1号岸壁(暫定水深12m)が供用開始する。 新湊地区 臨港道路富山新港東西線の整備に着手する。 伏木地区 北防波堤(1,500m)が完成する。</p> <p>2003(平成15) 新湊地区 旅客船ターミナル 海王岸壁(水深7.5m)が供用開始する。</p> <p>2006(平成18) 伏木地区 万葉3号岸壁(暫定水深12m)が供用開始する。</p> <p>2007(平成19) 新湊地区 定期コンテナ航路(中国・韓国航路)が開設する。</p> <p>2011(平成23) 伏木富山港 港湾法改正で国際拠点港湾に指定される。 伏木富山港 日本海側拠点港に選定される。</p> <p>2012(平成24) 伏木地区 北防波堤延伸部(150m)が完成する。 新湊地区 臨港道路富山新港東西線(新湊大橋)車道部が開通する。</p> <p>2013(平成25) 新湊地区 臨港道路富山新港東西線(新湊大橋)歩行者用通路が開通する。</p> <p>2019(令和元) 新湊地区 国際物流ターミナル 北4号岸壁(水深12m)が一部供用開始する。</p> <p>2023(令和5) 新湊地区 国際フィーダー航路就航。</p> <p>2024(令和6) 新湊地区 中央ふ頭再編整備事業 中央2号岸壁(水深14m)が供用開始する。</p>
--	---

伸びる取扱量

県産業の発展に寄与

伏木富山港は、日本列島の日本海側中央部に位置し、能登半島の南側、富山湾の中心にある。それぞれ成り立ちの異なる

伏木、新湊、富山の3地区が、東西約20kmにまたがる。最も西に位置する伏木地区は大型船舶の入港に対応した物流機能を備え、中央に位置する新湊地区は増大するコンテナ貨物に

応ずる。富山地区は運河をいかした水辺空間がインバウンドを含めた観光客に人気のある港になっている。各地区が発展していく過程で、ロシアや中国・韓国との定期航路、国際フィーダー航路

が就航するなど、環日本海・アジアの交流拠点として成長を続ける。

伏木富山港のある富山県は、日本海側で有数の工業集積(第2次産業従事者割合全国1位(2020)〈国勢調査〉)を誇る。古くから全国に広がった富山の薬売りによる家庭常備薬で得た資金と、急峻な地形により水害が多発していた状況から、治水・利水を行って得られた水力を主とする電力の供給により、県内産業の発展に結びついた。

このように富山県産業の始祖ともいえる医薬品だけでなく、事業資金、水力発電による安い電力、立山連峰などからの豊富な水、優れた人財、400年の歴史がある高岡銅器で育まれた金属加工技術を生かして、アルミの精錬をはじめとする金属製造、金属加工、機械工業などが活発に事業を展開した。こうした地域的な産業の成長に加え、製紙業や化学工業、エネルギー産業、リサイクル産業が港湾の開発とともに、発展してきた。

沿岸貿易の要港

伏木地区は、古く万葉(奈良

物流効率化し競争力強化へ

時代)の頃から沿岸貿易の要港として栄えてきた小矢部川の河口港であり、近代化以後、昭和にかけて大改修が行われた。

その後、貨物船の大型化に伴い、外港地区の整備を進め、1998年度に水深7.5m岸壁1バース、水深10m岸壁1バースが供用を開始し、2006年3月には水深14m(暫定水深12m)岸壁1バースが供用を開始する。2009年8月には伏木万葉大橋が供用し、物流機能が向上した。現在は、大型クルーズ船寄港時の係留施設としても利用されており、世界最大級の約22万t級大型クルーズ船も寄港が可能となっている。

富山地区は、江戸時代から河口港として北前船に利用され、周辺には当時の繁栄を偲ばせる歴史的景観地区がある。その後、大正から昭和期にかけて導流堤など大規模な改築工事が行われた。

現在は石油製品の輸入・移入、中古車・リサイクル材の輸出などに利用されており、ロシア向けの中古車輸出台数は全国トップ

クラスに位置づけられている。こうした物流機能のほかに、緑地として富岩運河環水公園が整備され、重要文化財中島閘門を通る運河クルーズが運航されるなど親水空間としても利用されている。

新湊地区は、新産業都市富山・高岡の中核的プロジェクトとして、放生津潟^{ほうじょうづがた}を掘削する形で掘り込み港湾として整備が進んだ。1968年4月に開港し、同時に造成された背後工業用地(426ha)には、工場立地が順調に進み、現在約90社が集う。工業港湾としての成長を確実に歩み続けている。

ロシア・韓国・中国への定期コンテナ航路が就航しており、経済発展や交流の活発化などによって、取扱貨物量は着実に増加。それに伴うコンテナヤードの拡張(2007年、2018年)や、岸壁の延伸工事(2010年、2019年)などを実施するとともに、コンテナ用ガントリークレーンを1基増設した。現在は2基体制で運用している。



伏木地区万葉岸壁に接岸中のMSCベリッシマ[㊦]とウエステルダム[㊦]

臨港道路開通で物流効率化

2012年9月には日本海側で最大級の斜張橋となる新湊大橋が供用を開始した。上部が車道、下部が歩行者通路という2層構造の橋梁で、総延長はアプローチ部分を含め約3.6km。橋を支える主塔の高さは127mあり、桁下高は47m。東西地域を結びつけ、物流効率化が図られるとともに、県内有数の人気観光スポットとしても注目されている。

新湊地区では2019～2023年度に、中央ふ頭再編整備事業(岸壁増深改良等)を行った。船舶の大型化や、取扱貨物の増加などに伴うバース運用の改善や船舶の沖待ち解消によるサプライチェーンの確保など、地域の基幹産業の競争力強化が期待される。

3地区全てに耐震強化岸壁

各地区が順調に成長していった伏木富山港だが、現在は予防保全事業が展開されている。富山地区では、延長185m・水深10mの2号岸壁の耐震改良工事を実施中。既存岸壁が老朽化していることから、構造形式を鋼矢板式からケーソン式に更新する。完成すれば、3バース連続という柔軟性を生かした運用が可能となり、貨物の取扱能力が向上する。この改良工事によって、伏木富山港3地区全てに耐震強化岸壁が完成することになり、富山県における大規模地震時の緊急物資輸送拠点が確保される。



ガントリークレーン2基で運用が始まる



耐震改良工事を実施している富山地区2号岸壁



新湊大橋

PICK UP

港内に観光スポット

伏木富山港内には県内でも有数の観光地が2箇所ある。新湊地区にある海王丸パークと富山地区にある富岩運河環水公園だ。コロナ禍中は若干の落ち込みがあったものの、富山県がまとめる「観光客入込数等」によれば、2箇所とも毎年トップ5入りする人気を誇る。

富岩運河環水公園は2022年から3年連続トップに立つ。2023年には178.5万人の観光客が訪れた。公園内にある店舗が、コーヒーチェーン店の店舗が社内デザインコンテストで最優秀賞に選ばれ、「世界一美しい」とSNS上で話題になって以降、国内外から観光客が訪れる。運河を利用したクルーズ船「富岩水上ライン」も人気で、同船が航行する中島閘門は、開園翌年の

1998年に、昭和期に築造された土木構造物としては初めて国の重要文化財(近代化遺産)に指定された。二対の扉を交互に開閉して水位差を調整するパナマ運河方式で、2.5mの水位差を調整している。昭和初期の土木技術の完成度の高さを垣間見ることのできるスポットだ。

海王丸パークは2019年に過去最高の120万人の入込数を記録した。海王丸は商船学校の練習船として、1930年に進水した。退役後の1990年から、現役当時の姿のまま伏木富山港内に展示されている。「海の貴婦人」とも賞される美しい純白の帆船で、2018年には日本船舶海洋工学会の「ふね遺産」に登録された。



富岩運河環水公園

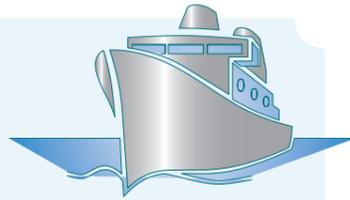


中島閘門

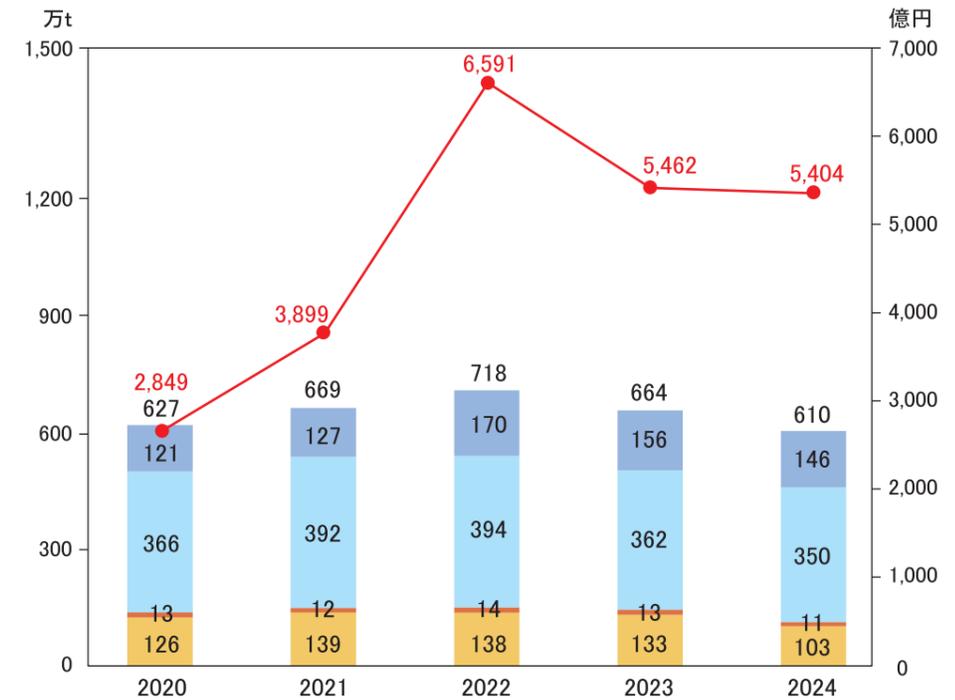


海王丸パーク

(取材協力・資料提供：国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所)



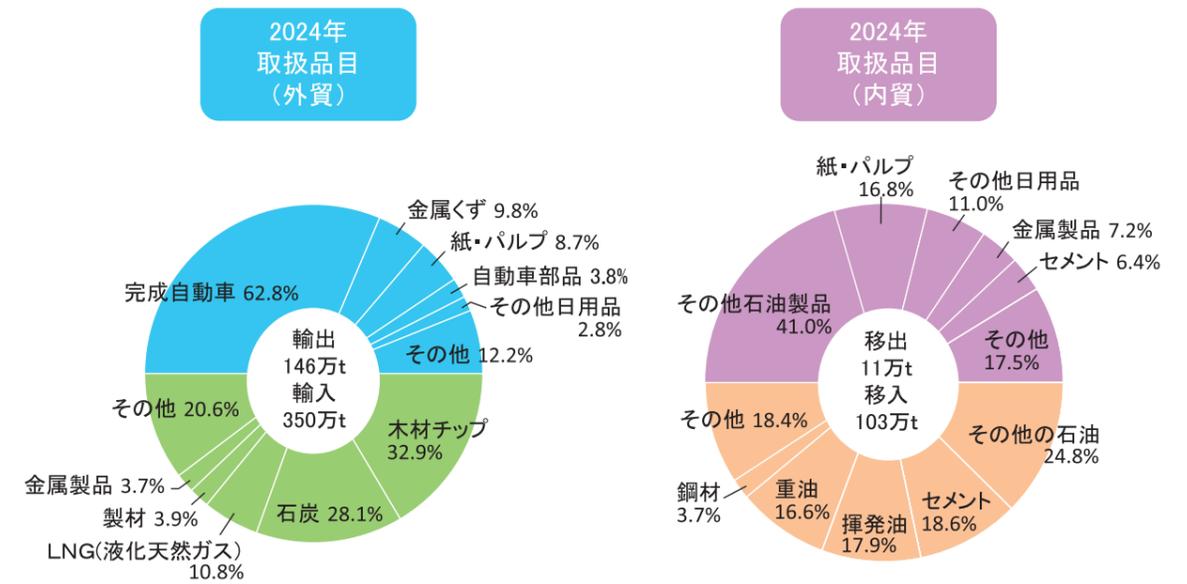
■ 総取扱貨物量の推移 ■



[左軸] ■輸出 ■輸入 ■移出 ■移入
[右軸] — 輸出

(2024年速報値)

■ 総取扱貨物品目 ■



出典：貿易額は財務省「貿易統計」、貨物量は富山県「富山県の港湾」より